

研究通信

No. 72

1970.8月刊
村落社会研究会
事務局

東京学芸大学
社会学研究室内

村研大会への参加申込をつのる

前号通信でお知らせしたように、今年の大会は十月二十八日・二十九日に開催されます。プログラムの詳細については、九月末ごろに、お知らせする予定ですが、第一日の大半を自由報告にあて、第二日を共通課題をめぐる報告と討論にあてることになるかと思えます。自由報告は、

堀口貞幸「近世村落の相地分地について」

岩本由輝「『今井邸系図』にみる近世農民家族」

内藤亮爾・土居平「五島カトリックの家族分封」

林 雅孝「開拓部落における農業の発展過程」

民秋 言「題未定」

という充実した多彩なものです。また、共通課題「村落社会研究の方法」については小池基之・福武直・中野卓の三氏の司会ですすめられ、報告者もほぼ固まったところです。次号研究通信では司会者団から示される討論の枠をお伝えする予定です。四回の研究会をふまえた成果を期待したいと思います。多くの会員の方々の御協力によってこのように準備がすすんでおりますので、できるだけ多数の御参加をえて質量ともに充実した大会をもちたいと事務局では念願

しております。

大会の日程は十月二十八日(水)、二十九日(木)の二日間、山形県天童市天童温泉の旅館「新庄館」が会場です。天童については次頁の勝又氏の紹介を御覧下さい。事務局では二十七日夜に到着され二十九日の夕方まで参加されることとして計画していますが(終了後東京方面まで帰れます)、二十九日にも宿泊を希望される方には別に宿舍を用意しますので御申込下さい。準備の都合がありますので同封のハガキで九月十五日までに出欠をお知らせ下さい。参加されない方も、名簿訂正の資料にしますので必ず御返送下さい。

費用は、大会参加費五〇〇円、懇親会費三〇〇円、宿泊費一泊二〇〇円(ただし二十九日夜は、二四〇〇円とより安い宿舍とを用意します)です。